

# がわらばん・市民自治基本条例 ワークショップ

## 第2回ワークショップ開催される!!

## 『自治について自由なグループ討論を行いました』

第2回ワークショップでは、私たちがイメージする「自治」について、自由にグループ討論をおこないました。身近な地域の自治組織（近所付き合いから自治会や町内会など）や住民と行政との関わりという大きく2つの分野で議論され、これらの新しい運営の仕組みやその中でひとりひとりの住民の役割などが具体的に各メンバーから提言されました。概要は次のとおりです。（要約・編集については事務局の責任で行いました。）



### 1 身近な地域の自治組織について

「民主的な運営を」 有力者の発言力が大きく、公平・平等の民主的な運営が行われていない現状。新しく町内に入ってきた人は自分たちの意見が反映されず、疎外感を感じている。

「いろんな人が参加できる町内会を」 自治会のあり方を見直す時期に来ている。若い人たちや女性が気軽に参加できる環境をつくり、世代や性別を超えた人的なネットワークを作ることが大事ではないか。

「みんなで担おう」 区長の負担が大きすぎる。すべてを任せっきりで、逆に町内活動に参画する人が少ないし、「役」の引受け手がない。

「情報を出してゆこう」 情報公開を行い、透明度の高い町内会を。このことで、ひとりひとりの関心が生まれる。

「小さなグループの付き合いも大事」 「大きい自治」では見えないところで限られた人たちで決められている感じがしているが、「小さい自治」では顔が見える関係で進められるメリットがある。この点、ご近所の小さな範囲でのグループ付き合いも効果的だと思う。

「地区を越えた参加」 地区を越えた自治の参加方法もあって良いのではないかな。

「場が必要」 地域で何か問題があったとき、話し合いや調整する「場」が無い。普段からいろんなことわいわい付き合っている「場」が必要。



### 2 地域におけるひとりひとりの役割について

「地域に対する気持ち」 ・「ここに住んで良かった」という実感を持てるようにしよう。  
・自分（たち）のことは自分（たち）でやる気持ちが大切。

「ひとりひとりの参加が重要です」 ・地域が元気になることが自治には必要。そのため、住民がそれぞれの役割を持っているような形で関わっていくことが重要。

- ・自分たちが考え、それが反映されること。これが長続きの秘訣。
- ・自分たちが選択できること。選択したなら当然、責任と負担も伴う。
- ・地域が力をつけるためには、住民みんなが関心を持つこと。
- ・自分たちがどこが好きで住んでいるのか。その理由が示せるようになるう。

「人材」 ・リーダーシップとそのための人材発掘。裏方の仕掛けも必要。



### 3 行政とのかかわりについて

「地域活動の棚卸しで本当に必要なものを探ろう」 地域組織も行政に対応していて、縦割りになっていないか。これまでの活動全般を一度評価してみよう。行政からやらされてきたものもあるのではないかな。本当に必要なものを見出すために「地域活動の棚卸し」をやるう。

「自分たちのことは自分たちでやってみよう」 ・財政危機の中での地域活動を考えるべきだ。税金を払っているのだから何でも市役所がやって当然の意識はないか。昔は隣近所で自然にやっていたことまで市役所に電話する環境を見直す時期ではないか。行政も「ここまでしかできない」と整理したほうが良い。

- ・行政が無かったらどうなる。行政としてやること。自分たちでやることを考えよう。
- ・公平で適正な受益者負担が重要。責任ある発言と要求につながる。
- ・自治をあまり難しく考えることではないのではないかな。自分の周りを自分の家と見ればよく、汚れていれば掃除をするし、家族の世話をする。家から一歩でたら自分の場所ではないという感覚があり、その部分は誰もしなくれば行政がやれということになる。

「行政も変わってほしい」 ・行政の情報公開と説明責任が自治の重要な要素。  
・市職員は地域の課題について、直接の利害がないということ活かして積極的に「調整役」

「交渉役」を担ってほしい。

- ・条例というと六法が浮かぶ。縛られている感じ。難しいお役所的なものはだめだ。